

漁業被害の軽減を目的とした貧酸素水塊対策について

貧酸素水塊は 2010 年代の前半は規模の縮小傾向がみられたが、2010 年代の後半以降は再拡大しており（図 1）、東京湾内湾の海底には依然として大量の有機物が蓄積、多量の酸素を消費する状況にあります。

そこで、千葉県水産総合研究センターでは、水産生物や餌生物を守るため、浅場やマウンドによる貧酸素水塊の影響軽減効果の検証を行っています。これまでに、5m 以浅の浅場やマウンド上（周囲より 3m 程度浅い）では、貧酸素水塊が波及しにくく、底質が良好に保たれ、また、魚類の餌料生物となる多毛類が多くみられるなどの結果（図 3）が得られており、貧酸素水塊の影響を軽減する可能性が示唆されました。今年度からマウンド周辺の調査点を増やし、より詳細な環境調査を行っており（図 3）、今後も漁業被害の軽減を目的とした貧酸素水塊対策を検討します。

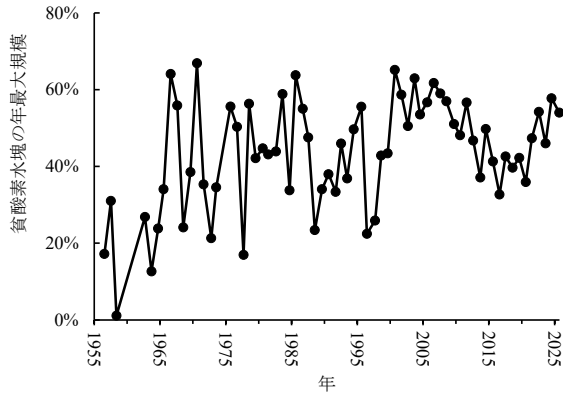
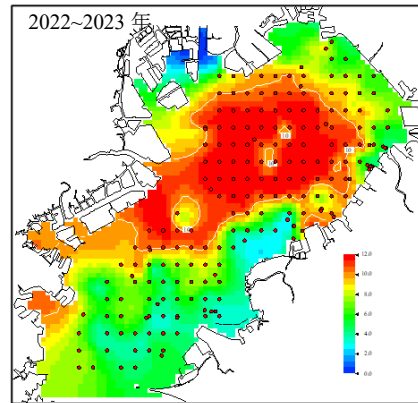


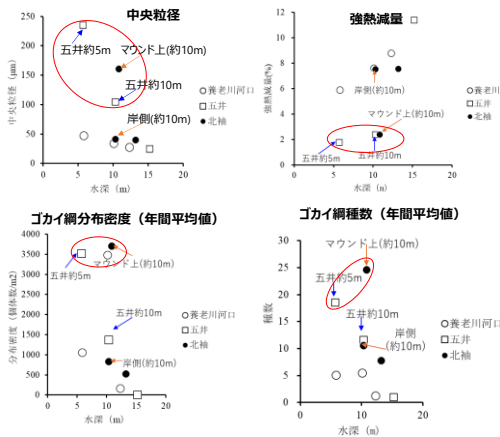
図 1 貧酸素水塊の年最大規模の経年変化



(小山ほか, 未発表)

図 2 底泥の強熱減量の分布 (%)

調査結果 2023~2024



調査方法 2025年 (R7) から

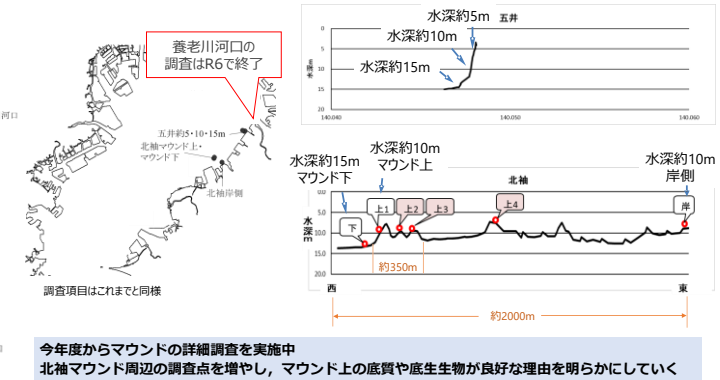


図 3 浅場やマウンドによる貧酸素水塊の影響軽減効果の検証概要